

まえがき

本書は日本語教育に関わる心理学的な知識を学ぶための入門書です。みなさんのなかには、この本のタイトルを見て「日本語教師に心理学の知識が必要なのだろうか」と疑問に思われた方もいらっしゃるでしょう。詳しくは本書のなかで説明しますが、実は、心理学の知識は、日本語を教えるとき、そして学習者の考え方や行動を理解したり悩みの相談に乗ったりするときにも役立ちます。それにもかかわらず、このような知識は、これまでの日本語教員養成科目では周道的に扱われていたり、さまざまな分野の講義において、ばらばらに教えられていたりしたのではないのでしょうか。心理学的な観点からの日本語教育研究の歴史は比較的浅いため、これまでこの分野にかかわる基礎知識を一冊にまとめた本は十分になかったように思います。そこで、日本語教育に関わる心理学的な基礎知識を一冊で学べるテキストはないだろうかと考え、執筆したのが本書です。

本書を執筆するうえで目標としたことが3点あります。第一に、「初学者にわかりやすい本」にするということです。目安としては、初めて日本語教育を学ぶ学部生が読んでも理解できるものを目指しました。第二に「日本語教師に役立つ知識」を中心とすることとしました。そのため、理論や調査結果の紹介だけでなく、本書で紹介した知識が教育現場でどのように応用できるのか、できる限り教育実践例や事例などを盛り込みながら執筆しました。第三に、大学などで日本語教育を学ぶ学生のための講義で教科書としても使っていただける構成としました。大学での講義を想定した場合、1 Semester (15回) で読み通せる1冊になることを意識しました。そのために、単に知識を整理するだけではなく、タスクや話し合いなどのアクティビティを盛り込むことで、読者の興味を高めたり、自分の経験を振り返ってもらったりすることを目指しました。各章の詳しい構成や本書の使い方については、次項の「本書の使い

方と留意点」を参照してください。

本書は大きく三部構成となっており、「第一部 日本語教育と心理学」「第二部 学習するときの心理」「第三部 異文化を理解するときの心理」に分かれています。「第一部 日本語教育と心理学」では、その後の第二部、第三部に続くイントロダクションとして、日本語教育と心理学の関わりについて説明しています。「第二部 学習するときの心理」では、第二言語の学習・習得にかかわる心理的側面を扱っています。「第三部

異文化を理解するときの心理」では、異文化接触や異文化間コミュニケーションにかかわる心理を取り上げています。本書では、上記のように日本語教育に関連する心理学分野を扱いましたが、取り上げた内容がこれらの分野のすべてを網羅できているわけではありません。何をどの程度取り上げるかという点には、著者たちの専門が反映されています。また、初学者向けの入門書を目指したため、わかりやすさを優先し、基礎的な概念や理論のみに絞って執筆しました。より専門的に学びたいと考える方々には、本書の読書案内で紹介した書籍や映像資料をもとにさらに学びを深めていただきたいと思います。

最後に、本書の執筆にあたっては多くの方からご助力いただきました。また、企画の段階から本書の完成に至るまで、くろしお出版の池上達昭氏に大変お世話になりました。このような企画を実現する機会を与えてくださった池上氏にこの場をかりて、心よりお礼を申し上げたいと思います。

2017年11月

執筆者一同

目次

まえがき	iii
本書の使い方と留意点.....	v

第一部 日本語教育と心理学

第1章 日本語教育と心理学の関わり	3
—心理学が日本語教育に役立つの?—	
1. はじめに 3	
2. 学習するときの心理 4	
3. 異文化を理解するときの心理 8	
4. おわりに 12	

第二部 学習するときの心理

第2章 記憶	19
—記憶って覚えることだけなの?—	
1. はじめに 19	
2. 記憶の過程 20	
3. 記憶するための方略 22	
4. 言語学習とワーキングメモリ 25	
5. 長期記憶の種類 30	
6. おわりに 32	
第3章 単語の認知	35
—どうやって単語の意味を理解しているの?—	
1. はじめに 35	
2. 頭の中の辞書 36	

3.	単語を認知する過程	41
4.	おわりに	48
第4章	文章の理解	51
	—文章を「理解する」ってどういうこと?—	
1.	はじめに	51
2.	「文章を理解する」とはどのようなことか	52
3.	文章の理解に関わること	53
4.	文章理解の三つのレベル	57
5.	文章理解における推論の役割	59
6.	聞いた文章を理解する過程	61
7.	おわりに	64
第5章	外国語習得に関係する認知能力	67
	—外国語学習が得意な人と苦手な人は何が違うの?—	
1.	はじめに	68
2.	初期の言語適性研究：適性テストの開発	69
3.	第二言語習得プロセスの概要	72
4.	第二言語習得における言語適性の役割に関する理論	73
5.	おわりに	80
第6章	言語適性と指導方法の適合	85
	—自分の能力や好みに合った指導だと学習の効果が上がるの?—	
1.	はじめに	85
2.	適性処遇交互作用	86
3.	さまざまな指導方法	88
4.	指導方法と言語適性の関係に関する理論	92
5.	言語適性によって異なる指導効果	94
6.	おわりに	97

第7章	ビリーフ.....	101
	—どんな勉強をしたら外国語が上手になると思う?—	
1.	はじめに	101
2.	学習者のビリーフと学習ストラテジー	102
3.	学習者が持つビリーフ	104
4.	教師が持つビリーフ	105
5.	ビリーフの相違に対する対処	108
6.	おわりに	113
第8章	動機づけ.....	117
	—どうして日本語を勉強しているの?—	
1.	はじめに	118
2.	統合的動機づけと道具的動機づけ	118
3.	内発的動機づけと外発的動機づけ	121
4.	第二言語の理想自己	123
5.	教室における動機づけ	125
6.	おわりに	128
第9章	第二言語不安.....	133
	—外国語で話すのってこわくない?—	
1.	はじめに	133
2.	第二言語コミュニケーションと情意要因	134
3.	第二言語不安研究のはじまり	136
4.	第二言語不安を引き起こす要因	137
5.	日本語不安に関する研究	140
6.	第二言語不安とコミュニケーション意欲	142
7.	おわりに	144

第三部 異文化を理解するときの心理

第 10 章	人の移動と異文化適応.....	151
	—海外旅行でご飯とみそ汁がほしくなるのはなぜ?—	
1.	人びとの移動と異文化適応	151
2.	異文化適応のプロセス	152
3.	移動する人びとと多文化社会	154
第 11 章	文化的差異と異文化コミュニケーション.....	171
	—言いたいことが外国人にうまく伝わらないのはなぜ?—	
1.	異文化コミュニケーションに現れる さまざまな文化的差異	171
2.	言語によるコミュニケーションと文化的差異	171
3.	非言語メッセージを用いたコミュニケーションと 文化的差異	181
4.	コミュニケーションの基本モデルと異文化接触	185
第 12 章	異文化摩擦を緩和する異文化トレーニング.....	189
	—初対面でも出身地を聞くとすぐにイメージが浮かぶのはなぜ?—	
1.	異文化摩擦を引き起こすもの	189
2.	異文化摩擦を緩和するために	193
3.	多角的な視点を獲得するために	196
索引	207
各章の確認問題・第5章のプレタスクの解答	211

第 1 章

日本語教育と心理学の関わり

心理学が日本語教育に役立つの？

■プレタスク 1

日本語教師に必要な基礎知識には、どのようなものがあると思いますか。考えたことを話し合ってみましょう。

■プレタスク 2

この本のタイトルは『日本語教育に役立つ心理学入門』ですが、「心理学」と聞くと何をイメージしますか。心理学はどのようなことを研究して、何に役立つ学問なのでしょう。考えたことやイメージしたことを話し合ってみましょう。

1. はじめに

プレタスク 1 では、日本語教師に必要な基礎知識について話してもらいました。みなさんは、どのような知識が必要だと考えましたか。たとえば、ある人は、日本語の文法や語彙に関する知識が重要だと答えるかもしれません。また、ある人は、色々な外国語の教え方を知っていることが大切だと答えるかもしれません。このように日本語教師に求められる基礎知識は幅広いものですが、そのなかの一つに心理学に関する知識があります。

ただ、そう言われても「心理学と日本語教育に何か関係があるんだろ

第2章

記憶

記憶って覚えることだけなの？

■プレタスク1

「記憶」という言葉から何を連想しますか。日常生活、学校生活などさまざまな場面を思い浮かべて考えてみてください。

■プレタスク2

テストのためにたくさん覚えなければならないことがある場合、どのようにして覚えていますか(覚えてきましたか)。効果的だった方法、効果的でなかった方法について、周りの人と話してみましょう。

1. はじめに

「記憶」という言葉からどのようなことをイメージしますか。単語や歴史の年号などの暗記、円周率を何万桁も言える人、小さい頃に親戚の家に遊びに行った思い出などさまざまでしょう。しかし、心理学の研究分野における「記憶」は、みなさんが持っているイメージとは少し違いかもかもしれません。第2章では、心理学における記憶とはどのようなものか、言語学習や言語教育、そして日常の言語使用にどのように関わっているのか、などを見ていきます。

■確認問題

次の質問に答えてください。

- (1) 口頭や頭の中で覚たい言葉を復唱することを何と言いますか。
- (2) 情報を処理するとき、処理の深さが浅いものから深いものへ順番に並べてください。 [意味的处理・形態的处理・音韻的处理]
- (3) 次の a、b、c は何という記憶に分類されますか。
 - a 「先週の土曜日、大好きな歌手のコンサートを見に行った。」
 - b 「地球は一年で太陽の周りを一周する。」
 - c スキップの仕方
- (4) 短期記憶とワーキングメモリの違いを説明してみましょう。

■ポストタスク 1

あなたが日本語教師であれば（または日本語教師になったら）、学習者に単語を覚えてほしいときにどのような練習方法を使いますか。それはなぜですか。「リハーサル」など、本文中の用語をできるだけ使って答えましょう。

■ポストタスク 2

ワーキングメモリの処理資源の配分が原因で、外国語の理解がうまくいかなかった経験はありませんか。周りの人と話し合ってみましょう。

■さらに知りたい人のための読書案内

① 苧阪満里子 (2002) 『脳のメモ帳ワーキングメモリ』新曜社。

☞「ワーキングメモリ」という概念の誕生からその後の変遷までが記述され、さまざまな学習者を対象とした実験結果、脳機能との関係など、ワーキングメモリの全容が理解できる一冊です。比較的平易な文で書かれているので入門者にお勧めです。

② 縫部義憲 (監修)・迫田久美子 (編) (2006) 『講座・日本語教育学

第7章

ビリーフ

どんな勉強をしたら外国語が上手になると思う？

■プレタスク1

外国語を学ぼうと効果的（または、あまり効果的ではない）と思う学習方法は何ですか。あなたが教師なら、効果的（または、あまり効果的ではない）と思う指導法、活動はどのようなものでしょうか。グループで話し合ってみましょう。

■プレタスク2

プレタスク1で挙げた学習方法や指導方法について、効果的（または、あまり効果的ではない）と思ったのはなぜでしょうか。あなたがそう考えるようになったきっかけや理由がありますか。グループで話し合ってみましょう。

1. はじめに

みなさんが外国語の学習を進めるうえで効果的と考える学習方法はどのようなものでしょうか。またはあなたが日本語教師なら、どのような指導法が効果的だと考えますか。プレタスク1で話したことを思い出してください。外国語が上手になるためには、「語彙を増やすことが大切だ」と考える人もいるでしょうし、「文法を完璧に使えるようにならないとダメだ」とか「とにかくネイティブとたくさん話したほうがい